

性別による無意識の思い込み

言の葉OFFICEかのん代表 川邊 暁美

◆社内研修画像の違和感

先日、ある企業のコミュニケーション研修に登壇することになり、「職場でのコミュニケーション」をイメージしたフリー素材画像を使って社内サイトで告知してくれたのだが、その画像に違和感を覚えた。男性上司が中央で話をして、周囲を取り巻く若い女性社員たちが笑顔で聞いているという写真だ。

校正の段階で「研修趣旨を踏まえて男女が対等に話している画像に差し替えてほしい」と伝えたが、「ありません」との返答。自分でも探してみたが、確かにビジネスシーンで発言、プレゼンテーションしているのはいずれも男性で、女性は聞き手、もしくは指導を受けているような画像ばかりだった。

担当者は「これまでそういう視点で考えたことはない。指摘もない。気にする必要はない」と言う。しかし、これでは職場でのコミュニケーションを円滑にするためには、女性はただ笑顔で従っていればよいというメッセージを無意識に発しているのではないか。結局、研修内容は文章でカバーした。

◆男女格差、日本は120位

スイスに拠点を置くシンクタンク「世界経済フォーラム」が2021年3月に公表した「ジェンダーギャップ指数」によると、日本は156カ国中120位で先進7カ国(G7)の中では最下位。これは、政治、健康、教育、経済各分野の男女格差を示すもので、中でも政治、経済分野は著しくスコアが低い。

18年に「政治分野における男女共同参画推進法」が成立し、政党が男女の候補者を均等に努力義務が課せられたが、実際の候補者数は均等とは言えず、衆院議員に占める女性の割合はいまだ9.7%(21年)。「指導的地位(国会議員や企業の管理職等)に占める女性の割合を20年までに30%程度に上昇させる」という目標も、達成年限が「20年代の早期達成」へ修正されるなど、ジェンダー平等への道のりは険しい。

◆ランドセルの色も自由に

法律や制度が整っても男女格差の是正が進まないのはなぜなのか。内閣府が21年9月に発表した「性別による無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)」の調査結果によると、男女ともに「女性には女性らしい感性がある」「男性は仕事をして家計を支えるべきだ」「女性は感情的になりやすい」「育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきではない」「共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先すべきだ」「家事・育児は女性がすべきだ」などが上位を占めたようだ。

日頃、何気なく周囲やメディアを通じて見聞きしているものから、こういった無意識の思い込みを積み上げているとしたら、その連鎖を断ち切るのは容易ではない。

そんな中、新聞で読んだ「ランドセルも自分らしく」のニュース。性別で色を分けない「ジェンダーレス」なランドセルが注目を集めているという。これまでの男の子が赤を選んでも親や祖父母が反対する、という流れが変わり、「男らしく女らしく、ではなく、自分の子どもには個性を大事にしてほしいと願っている世代が親になったから」だとか。

赤のおもちゃを選んだ甥(おい)が彼の祖父に「女の色を選ばな」と却下され、大泣きしたのは約20年前。ようやくここまで来たか。思い思いの色のランドセルを軽やかに踊らせている子どもたちの背中に、無意識の思い込みから自由になる翼が生えているように見えた。

(かわべ・あけみ)

◆監修◆ 内外情勢調査会

◆委託編集◆ 時事総合研究所

〒104-8178 東京都中央区銀座5-15-8 TEL: 03-6800-1111(代表)

この記事に関する問い合わせは、時事総研(03-3546-2384)まで

本稿の一切の情報について、無断転載・複写をお断りします。©時事通信社 2003